

【授業実践振り返りカード】

学校名 本郷小学校	学年 1 年
授業者氏名 佐野 登	
題材名 なんじ・なんじはんで、はみがきしたじこくをつたえあおう	
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 時計の「なんじ・なんじはん」の学習をした子どもたちが、自分の歯磨きをする時刻について着目し、お休みの日の歯磨きの時刻を、友だちと伝え合うことを通して、時刻と日常生活を関連付けて、毎日の歯みがきの時刻を意識することができる。	
学習材 教科書 プリント「はみがきの じこくしらべ」	
成 果 友だちと比較し、「早い時間だね」「けっこう遅いね」と語らいながら、時刻を紹介することができた。 朝起きる時刻や寝る時刻、食事の時刻についても調べてみたいと話題が出た。 朝と夜の時刻が同じで、一日には二回同じ時刻があると話題になり、時間について追及したい意欲をもてた。また、夜から朝にかけて、長い時間で、虫歯菌が増えてしまうと話題になり、夜の歯磨きの大切さについて考えることができた。	
課 題 今後「なんじなんぷん」の単元の学習の際にも、歯みがきの時刻を意識できる取り組みを実施することが望ましい。	

学校名	本郷小学校	学年	2 学年
授業者氏名 辰野 亘			
題材名 「 食べている時の姿勢はどうだろう 」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ (or 体験した・調査した) 子どもたちが (既習や経験)、〇〇に着目し (健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、〇〇することを通して (本時の中核的な学習活動)、〇〇する力 (育成する資質・能力) を培うことができる。			
主 眼 授業中の姿勢についてあまりいい姿勢ではない時があると知った子どもたちが、給食を食べている時の自分の姿勢にも目を向け、場面ごとにいい姿勢や悪い姿勢を考えることを通して、食事時の姿勢を良くしようとする意識を高めることができる。			
学習材 (本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等) 自分自身の食事中や授業中の姿勢			
成 果 ・きっかけは学習時の姿勢からだったが、他者から見た自分たちの姿勢について知ること で、子どもたちが様々な場面の自分の姿勢について見つめ直すきっかけになった。 姿勢は食事のマナーにもつながってくる部分であるため、休み明けで切り替えができる この時期にできたことで2学期の今後の意識としてつなげていきやすいと思う。			
課 題 ・姿勢の改善は、短期で身につくものではないため、長期的な目で見ていく必要がある。 ・いい姿勢の児童を取り上げるなどして、意識を高めていくことも必要だと思う。			

【授業実践振り返りカード】

学校名 本郷小学校	学年 3年
授業者氏名 守屋久美	
題材名 「レッツ パタカラ！」リコーダーで楽しく取り組もう その2	
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 リコーダーで少しずつ「パタカラ体操」を吹けるようになってきた子どもたちが、しっかりとしたタンギング “トゥ” を意識し、速さや大きさ、リズムを工夫しながら演奏することを通して、パタカラ体操のよさやおもしろさを改めて感じると共に、「みんなに聞いてもらおう」と演奏への意欲を高めたり、ぱたから体操に新鮮な気持ちで取り組んだりすることができる。	
学習材 ・パタカラ体操の楽譜 ・リコーダー運指表	
成 果 ・ リズムに乗って楽しく挑戦する姿が見られている。リコーダーに苦手意識をもっている児童も、聞き慣れているリズムであることや、限られた運指で演奏できるため見通しをもって取り組むことができている。 ・ しっかりとしたタンギングへの意識が、舌の使い方や口の形への意識にもつながっている。 ・ ノリノリで吹く姿から、音楽会でも自分達はもちろん「レッツ パタカラ！」と、全校で楽しめそうである。	
課 題 ・ 口の形や、舌の位置、動きを意識することが、リコーダー演奏のみならず合唱にもつながっていく。引き続き教科のねらいを大切にしながら、取り組んでいきたい。	

学校名 本郷小学校	学年 4年
授業者氏名 塩澤 佑樹	
題材名 「 歯の健康を保つために 」	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、○○に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、○○することを通して（本時の中核的な学習活動）、○○する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 夏休み中の自分自身の生活を振り返った子どもたちが、 2学期における学校での歯みがき習慣に着目し、 2学期にクラス全体で歯を健康に保つためにどのようなことができるのかを話し合うことを通して、 自分たちの健康の土台を自分たちで作ろうとする力を培うことができる。	
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） ・子どもたち自身の夏休み中の歯みがきや食事等の話題	
成 果 ・夏休み中に家族でのお出かけや行事の関係で歯みがきの間隔が空いたことや、家でゆっくり過ごす中で、歯みがきの取り掛かりがゆっくりになったり、お菓子を食べたりすることが多くなったりしたこと等、自分たちの生活を見つめるきっかけとなった。 ・歯の健康のために、自分たちの総合的な学習の時間の活動で取り組んでいることが生かせないかという、子どもたちの見方が出てきた。	
課 題 ・今後は総合的な学習の時間の活動とも絡め、より自分たちの生活の中に位置付けていかれるよう、実践を計画していきたい。	

【授業実践振り返りカード】

学校名 本郷小学校	学年 5年
授業者氏名 横井 聡	
題材名 学級みんなで続けよう 給食後の歯みがき	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ (or 体験した・調査した) 子どもたちが (既習や経験)、○○に着目し (健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、○○することを通して (本時の中核的な学習活動)、○○する力 (育成する資質・能力) を培うことができる。	
主 眼 これまで正しい歯みがきの大切さについて学んできた子どもたちが、自分たちの学級における給食後の歯みがき実施率が67%であるという実態に着目し、全員が歯みがきに取り組むために必要な方法を話し合い、仲間同士で確認し合う取り組みを考えることを通して、 自分と仲間の歯と口の健康を守るために、主体的に生活習慣を改善しようとする力を培うことができる。	
学習材 ・学級における給食後の歯みがき実施率 ・歯みがきカレンダー	
成 果 ・自分たちの学級における給食後の歯みがき実施率が67%であることを知り、「思っていたより低い」「全員ができるようにしたい」と、学級全体の課題として捉える姿が見られた。 ・全員が歯みがきに取り組むために、どのような方法が必要かを話し合う中で、「近くの人同士で歯みがきをしたか確認し合う」「名簿にチェックして実施状況を確認する」といった考えが子ども主体で出された。 ・子どもたち自身が考えた方法として、給食後に近くの友だちと声をかけ合い、歯みがきできたかを名簿に記録する取り組みを始めることができた。	
課 題 ・名簿へのチェックや実施率を高めることだけが目的にならないよう、歯みがきを行う本来の目的を繰り返し確認する必要がある。 ・友達への確認が注意や責めるような関わりにならないよう、「忘れないために互いに支え合う取り組み」であることを共有していきたい。 ・今後は、歯みがきをしたかどうかだけでなく、一本一本丁寧に磨くことや、自分の磨き残しやすい場所を意識することなど、歯みがきの質にも目を向けられるようにしたい。実施した数字に、磨き方の質は表れない。	

【授業実践振り返りカード】

学校名 本郷小学校	学年 6年
授業者氏名 清水 友貴子	
題材名 歯みがきを振り返り、これからの生活にいかそう	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ (or 体験した・調査した) 子どもたちが (既習や経験)、○○に着目し (健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、○○することを通して (本時の中核的な学習活動)、○○する力 (育成する資質・能力) を培うことができる。	
主 眼 夏休み中に「はみがきカレンダー」を使い、日々のはみがきについて記録してきた子どもたちが、 休み中の自分の歯みがきの取り組みを振り返ることを通して、 家庭における自分の歯みがきの成果と課題をみつけ、家庭（休日）の歯の健康について生活の改善を考える事ができる。	
学習材 夏休み中の歯みがきカレンダー	
成 果 ・色塗り形式にしたことで、改めて見返すと自分の足りていない取り組みに気づくことができた。 ・休日における、自分の歯みがきの状態を客観的に見直すことができていた。 ・保護者の感想欄から、歯みがきできないときは代替策をしているなどの家庭の状況を知ることができ、また保護者自体が子どもの実態を把握することができたとの感想があったことで家庭での様子の共有ができた。	
課 題 ・長期休業で特に昼の取り組みに差がある。歯みがきが習慣付いている児童は自発的に行っているが、声をかけないとやらなかったり、昼はほとんど磨かない子がいたりする。 歯みがきの意義について家庭を巻き込んだ意識付けが必要。	